

## 富山県総合計画審議会 第1回富山地域委員会

1 日時 平成29年7月31日(月) 15:00～17:00

2 場所 ANAクラウンプラザホテル富山 3階 鳳の間

### 3 出席委員(五十音順)

高木委員長、森副委員長(オブザーバー出席:前田企画管理部次長)、金森副委員長(オブザーバー出席:古越副村長)、石川委員、伊東委員、井山委員、上田委員、梅本委員、永崎委員、小柴委員、坂井委員、島川委員、白倉委員、瀬川委員、田畑委員、中田委員、野尻委員、羽根委員、舟橋委員、室伏委員、山田委員、山地委員、吉川委員

### 4 議事

- (1) 新総合計画の骨子案について
- (2) 地域別の特性と取組みについて

### 5 発言要旨

#### (1) 知事挨拶 石井知事

- ・ 本日、富山県総合計画審議会の第1回富山地域委員会を開催したところ、高木委員長、委員の皆さん、市町村長さん方をはじめ、また経済界や文化界、各界の代表の皆さんには、お忙しい中、またお暑い中、ご参加いただきありがとうございます。
- ・ 富山県は平成24年4月に現行の「新・元気とやま創造計画」を作って進めてまいりましたが、おおむね順調だと思うのですけれども、一方で、計画策定から5年余りが経過し、ご承知のように北陸新幹線開業で、予想以上に観光や企業立地などいろいろな面でいい影響が出てきていると思います。また、併せて国でも地方創生戦略を国の重要政策の一つにさせていただき、富山県は新しい未来に向けて、今新たな飛躍・発展を目指す大変いい位置にいる、チャンスの時期を迎えていると思います。
- ・ 5年たって、いろいろな数字でいい方向に変わっているものも多いので、改めて計画の見直しをしようということで、昨年12月に第1回の審議会を開催して、以来、活力、未来、安心、総合の四つの部会、また青年委員会もそれぞれ2度開き、県づくりの視点、各分野の具体的な政策課題について基本方向を取りまとめていただきました。そうなりますと、では地域ごとにどうなるのかということですので、あまり具体的に書き過ぎますと市町村の皆さまのいろいろな計画との関係もありますが、地域ごとの特性や課題などを反映した政策推進の基本方向を示そうということで、総合部会の下に、新川、富山、県西部の三つの地域委員会をつくりました。
- ・ 今回は富山地域委員会の第1回の会議です。これまでの総合計画審議会での議論を踏まえた骨子案、また現行計画の地域別の方向性・計画を踏まえて、大体こういうことではなかろうかという素案、たたき台的なものをまとめさせていただいていますので、今日この後、このようなことについてご説明申し上げ、大変ご見識の高い経験豊かな方ばかりですので、皆さんからいろいろな面でのご意見を承りたいと思います。

- ・ なお、今後の話としては11月ごろ、この地域委員会をもう1回開き、再度議論していただくことにしております。各部会や総合計画審議会もこの後、年末に向けてもう1度やりまして、それまでの間にパブリックコメントやタウンミーティングなども行い、幅広い県民の皆さんのご意見も活かして、何とか来春なるべく早くにまとめたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

#### (2) 委員長及び副委員長の指名

- ・ 富山県総合計画審議会運営規程第6条第1項により、総合計画審議会の永原会長から、本委員会の委員長に高木委員、副委員長には森委員、金森委員、今家委員が指名された旨の報告があった。

#### (3) 委員長挨拶

##### 【高木委員長】

- ・ 富山地区委員会の委員長を務めさせていただくことになりました。皆さまのご協力をおもちゃして進行を進めてまいりたいと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。
- ・ これから審議を行っていただきます新しい総合計画は、人口減少、高齢化が今後急ピッチに進むと思われる中で、待ったなしの対応が求められております。そうした中で、富山県、この地域をよく知る皆さま方一人一人の役割は極めて重いものがあると思います。皆さまがご発言いただきましても、総合的な観点から必ずしも全部が県の政策に反映されるものではありません。しかし、この場でぜひ言っていたきたいと私は思っております。将来、孫子の代に「あのときの方々は何も将来のことを議論しなかったのではないか」と言われぬように、一人一人の闊達な意見を求めるものでございます。
- ・ 短時間ではありますが、どうか本当に富山県、そして富山地域の将来のために、忌憚のないご意見をお願いするものでございます。どうかよろしく願いいたします。

#### (4) 資料説明

<事務局より資料5～8を説明> 省略

#### (5) 意見交換

##### 【高木委員長】

それでは、次に意見交換に移りたいと思います。今回ご議論いただきたいことについては、今ほど事務局から説明があったとおりですが、これにかかわらず、自由にご意見を賜ればと思います。

富山県人の引込み思案のところから見ると、時間がもったいないので、すぐ当てていきます。まず、商工会議所・商工会の方々をお願いしたいと思います。まず、井山八尾山田商工会長さん、お願いします。

##### 【井山委員】

- ・ 富山市八尾山田商工会長の井山です。八尾ですと、どうしても「活力とやま」の中の

「観光振興と魅力あるまちづくり」が商工会としても一番、そのテーマでいろいろと今までやってきました。今、人口減ということで、伝統文化の継承が一番心配されているところで、八尾としましては小学校が1校、八尾小学校がやっているのですが、他に3校の小学校があります。その3校の小学校の児童もなるべく練習から出してもらい、おわらの雰囲気になじんでもらうことを4~5年前からやっております。そして、親御さんがその気になれば、中学校に入っても出してもらえると。

それで今は富山市ですが、八尾は統合の話がありますが、やはりおわらと全然関係ないところと合併しても、そういうことをやっていきたいと自治会では思っております。県ですと、八尾高校があります。八尾高校も今、郷土芸能クラブというのがあり、修学旅行とか、全国郷土芸能大会にも出ております。

今年のおわらは、金・土・日の3日間です。3日目は、今までグラウンドの演舞場はなかったのですが、今年初めてすることが決ましまして、3日目の1番手は八尾高校の郷土芸能部が出演することが決まっております。今年デビューですので、皆さんもし時間があれば見に行ってください。

- それと、八尾には工業団地があり、富士通や日立国際電気がありますが、八尾高校の2年生に対し、社会見学ということで企業見学会をしております。この間、どこかの会長が言っておられましたが、その反対で地元企業へのUターンを促進し、地域経済の活性化ということでここ2~3年やっています。今、高校の統廃合もいろいろ言われていますが、県立八尾高校は地元根付いた、いい高校です。
- あとは、空き家対策ということで、先日もNHKの「鶴瓶の家族に乾杯」にOYATSUが出ていましたが、あれも富山市の蔵のある空き家を商工会が借りて、彼女に貸すというシステムで頑張っています。そういうシステムが今年新聞に出ていましたが、岩瀬地区と八尾地区で富山市ももう少しやるという話を聞いております。これをモデルケースにした空き家対策が地域の魅力と活性化につながると思うので、頑張っていきたいと思います。

#### 【梅本委員】

- 富山市南商工会の梅本でございます。商工会が合併して9年目に入りましたが、やはりこの間に、県内どこも同じだと思いますが、非常に少子高齢化で、まず過疎化が進んでいます。特に私どものエリアは婦中、大山、大沢野細入という三つの支部で構成しておりますが、非常に従来の企業あるいは商店がなくなっており、どうか10年計画の中に大山や大沢野の方に工場誘致をしていただいて、そこに雇用を生み、そして夫婦で人口増になるようにしてもらいたいと思っております。非常に厳しくなっておりますので、どうかその辺を考慮してもらいたいと思っております。

#### 【坂井委員】

- 上市町商工会の坂井でございます。私たちの町も非常に難しい状況に直面しているのが現実です。一つの例を申し上げますと、企業名を挙げると大変困ることが出てくることもあります。私の町にはムヒの会社がございます。このムヒの会社の先代会長が池田模範堂という会社を売り名にして商品が売ればという意向が非常に強くて、前に四国

の池田高校という野球が強かった高校があります。その池田高校が全国で有名になったときに、池田の名前をお借りして、池田模範堂を売り出しました。富山県中新川郡上市町の池田模範堂というものの売り込みが、商品のムヒよりも強かったわけですが、今の若手の社長に代わってからは富山県上市町の池田模範堂では商品が売れないということで、売り名、工場名、やはり生産地の名前を挙げないで、ムヒだけで売り出そうというイメージで、現在は挑戦していらっやいます。

- 同時に、私たちの地域は、全国的にも富山県というイメージがやはり薄いという感じを受け止めております。そういう点からしても、私たち上市町は、劔岳と日本海の結び付きの中で、やはり町をいかに活かしていくかということが大きな課題だと思っております。

非常に新鮮な空気の中で、緑を活かして、今の行政はグリーンツーリズムのような美しい空気の中で若手に活動していただく売り方で、何とか上市町を活かそうという感じですか。そういう中であって、やはり商工会として一番混乱しているのは、老舗が町から消えていく状況をどうしても止められないという現実だと思っております。やはりこのままではこれから先、私たちの町はなくなるのではないかと思うので、老舗が活躍してくれるような町に戻す取組みをこれからも頑張っていかなければならないと感じております。そのためには、地元の産業、企業と観光を結び付けるために、町で人の呼び込みに多少でも時間を取っていただけるようなまちづくりに挑戦することがこれからの課題だと思っております。そういう中で、やはり皆さんのお知恵を貸していただけるような機会をぜひ活用していきたいと思っております。

#### 【田畑委員】

- 富山市北商工会の田畑でございます。私のテリトリーは水橋地区と、岩瀬を飛び和合地区と呉羽地区の三つがあり、会員が1500人です。本日は、このように富山県の総合計画ということで、非常に盛りだくさんの審議事項があるわけですが、すぐにコメントするのもなかなか難しいです。
- 私どもの業界は今日、商工会長が5人出ているので大体同じことだろうと思っておりますが、かつて日本の高度成長時代は、日本の経済を支えるのは中小企業だということがささやかかれていたことがあった気がします。とにかく今は、脱会者がものすごい勢いで増えており、1年間に一つの県が消えていくような現状です。ここ20年ぐらいで、30万組織ぐらいが減っています。

とにかく、今ほど話がありましたように、要するに後継者不足、高齢化といった構造的なものも含めて、脱会者が非常に多いということで、今も県や市からいろいろご指導いただいております。たくさんの中で恐縮ですが、商工会の方にも一つ、新しく援助というか、ご指導をよろしくお願いいたします。

#### 【山田委員】

- 富山商工会議所の山田でございます。まず今回のテーマといいますか、富山地域を考えて、地域の特性ということだと、やはり富山地域は立山などの大きな山を抱えていることが挙げられるのではないかと考えております。そういう中で、新総合計画の基本計

画を見てみると、「海のあるスイスを目指して」と書いてあったのですが、なかなかいいキャッチフレーズというか、うまいことを言っているなどと思います。富山の場合、立山から富山湾まで、両方足すと高低差は大体 7000m だと思います。そういう所はそんなにたくさんあるわけではありません。

「海のあるスイス」ということよりも、その 7000m をどのように外から来る人にアピールするか、あるいは見ていただくか、その辺をかなり注目して考えるのも一つではないかと感じています。立山の方から一挙に海まで、非常にアプローチも短いわけですから、その辺をうまく活かして、海の方はなかなか難しい話ですが、山と海を一挙に 7000m の高低差を感じてもらうことが一つ大事ではないか。それは日本全体の中でもそう簡単にはないところだろうと思います。そのような観点で考えるのも一つではないかと感じています。

- それともう一つ、先般新聞にも出ていましたが、富山湾の漁獲量がかなり減っているということです。皆さんもよくご存じのように、海水温の問題などが影響していると思うのですが、これについては今後 10 年においても、ますます変わっていくのかどうか、なかなか元に戻るという話ではないかと思しますので、その辺のことをある程度前提にしながらかえていかなければいけないのではないかと。

現実問題、これは正確に調べているわけではありませんが、恐らく前浜で捕れた魚を使って加工している業者の方は多数おられると思いますが、その辺はかなり苦しい状況にあるのではないかと。ホタルイカも今年は結構捕れたといいながら、それは去年よりも良かったというだけであって、決して量も多くないのが現実です。そういうことを考えても、海水温の変化や捕れる魚種の変化は避けて通れないところだろうと思いますので、ここはかなり長期的な視点でどう捉えていくのかが大きな課題の一つではないかと感じています。

#### 【吉川委員】

- 立山舟橋商工会の吉川でございます。私は分野として、「活力とやま」の中の「観光振興と魅力あるまちづくり」について若干申し上げたいと思います。

当初、新幹線の富山乗り入れと同時に、立山黒部アルペンルートの観光客もいよいよ 100 万人を楽に突破するのではないかと考えていました。しかしながら、100 万人は結構高いハードルで、100 万人を前に足踏みしている状況です。

そしてまた、立山舟橋地区は立山黒部アルペンルートの途中の平野部ですから、来客者にとっては単なる通過点という認識であり、なかなか来訪者へのおもてなしサービスというか、来訪者をもてなしたり、満足度を高めたりする面では、私どもの商工会、町民ではもう少し技が足りないところです。

それから、特に観光拠点となる称名滝や立山博物館、芦峯の雄山神社など、非常に観光拠点としては優れたものがたくさんあるのですが、立山黒部ルートを優先して、称名滝や立山博物館などにはなかなか行ってもらえません。旅行ルートの中にそういうものを組み入れてもらう努力がまだ足りないのではないかと思います。その辺も十分に勘察しながら、有機的に回遊できるようなルートづくり、また旅行会社への働き掛けも非常に大事なことでないかと思えます。町あるいは商工会としても、来訪者の満足度をよ

り高めるような努力、親切・もてなしをもう少し前面に出して計画を立てるべきではないかと思っております。

- それから、よく苦情として来ますが、観光シーズンになりますと、立山駅での待ち時間が2〜3時間になることが往々にしてあります。せっかく立山に観光に来て、2〜3時間何もない時間があるのは非常にもったいないです。その辺が立山の素晴らしさと反比例して不満度を高めています。つまり、パーキング場がないのです。パーキングするスペースが少ないのです。それで、立山駅からすぐ近く、博物館はすぐ近くなのですが、例えば雄山神社や称名滝などいろいろ近くにあるのですが、いったんパーキングしている車を動かすと、今度そこに止められるかどうか随分不安なのです。ですから、2〜3時間我慢してもそこにしようということで、満足度を下げている状況になっています。

ですから、パーキング場の整備、二次交通の整備、マイクロバスやワゴンタクシーあたりを整備して、もっとおもてなしとして、その辺の観光拠点を余すところなく回ってもらい、富山県の立山をもっと皆さんに満足していただけるような形に持っていければと思います。私どもも努力いたしますが、富山県のご配慮もよろしくお願いします。

#### 【小柴委員】

- 上市町にある株式会社コージン、電気機械部品を作っている製造業の小柴でございます。地域の特性と課題ということで、富山地域はないものねだりをするのではなく、本当に豊かな山や海、自然に恵まれて、食べ物もおいしいし、観光地もいいという特徴・特色がありますので、それらを活かしたいろいろな取組みはぜひ必要だと思います。今、夏祭りが盛んですが、各地独自のお祭り行事や獅子舞、上市にも獅子舞があるので、そういうものも人を呼べる立派な観光資源として使えると思います。
- また、工業、ものづくりも盛んなところなので、ものづくりに携わる若手社員もおかげさまでたくさんおられます。その若い人たちになかなか結婚のチャンスがなく、お相手が見つからないということで、独身の男女が多いのですが、県のマリッジサポートセンターでそういう出会いやイベントを提供するものもいろいろつくっておられるので、そちらを利用する側の若い人たちの意見を聞いて、もっと利用しやすいものに精査していくことが必要ではないかと思えます。
- あとは、子育てです。昔は結婚して子どもが生まれたら家庭に入る方も多かったと思いますが、最近ではほとんどの方がまた企業に戻って仕事をする環境の中、親御さんと同居していない人も多いので、やはり子どもが生まれてから保育園に預けるのですが、病気になってすぐお迎えの電話がかかってくるので、富山市では取り組んでおられるそうですが、お迎え型体調不良時の保育事業を2016年から始めたそうですが、そういう便利なことというか、働きやすい環境づくりを進めるには、横のつながりでもっと連携して、子育て世代をいろいろサポートすることが望ましいと思います。
- また、子育て世代は、子どもが小さいときに予防接種やワクチンなどの実費も数万円というかなり高い金額だと聞いていますので、富山県として子育てしやすく、若い方の負担を軽減するような施策もぜひ行っていけばいいと思います。

#### 【白倉委員】

- ・ 富山駅周辺開発協同組合という組織がありますが、これはよく私が兼ねている再開発と混同されます。そうではなくて、それこそ 50 年ほど前から、やがて新幹線が来るだろうということであの界限で商売をされている方が、地元として富山駅をいかに良くするかということのできた組織です。協同組合ですが、今は周辺、あるいは駅北の方の大企業にも賛助会員として加わっていただいております、いろいろと富山市、県とも足並みをそろえながら、勉強会も含めてやってきました。実は去年から、その関係で、富山駅南口で魚を使った飲食店をしています。
- ・ これから私の持論で、今までもこういう会で何度か言っていますが、富山県は本当に山があつて、海があつて、なおかつ非常にコンパクトで、富山市がちょうど真ん中にある。富山市からコンパスを引くと、大体 40~50km でカバーできます。交通手段にもよりますが、どこに行くにも 1 時間かからずに行けます。石川県もほとんど面積は一緒ですが、かなり環境は違います。

私はもともと本業が車屋なのですが、そういう中で一つは移動のために地元の方は車を使っておられますが、県外からおいでになる方は公共交通がなかなかうまく連携しないとおっしゃいます。最近の新聞などで報じられたとおり、本当に遠くない将来、自動運転、無人タクシーの時代が来ます。県内においても昨年、一昨年ぐらいに試行的にそういうことをやろうという動きがあり、残念ながら頓挫しました。例えば私の駅前の魚屋の関係でいうと、富山駅で降りたら、氷見や新湊に行きたいときになかなか大変なのです。

しかし、それが今、2020 年のオリンピックのときまでに、東京辺りでは実用化したいという話があります。まだ 10 年かかると思いますが、間違いなくそういう時代が来ます。そうした場合に、これだけ地理的に恵まれている富山県は、地元中山間地の高齢者の移動手段も含めて、あるいは公共交通の駅からのラストワンマイルという言葉がありますが、駅を降りた後の移動は非常に変わってきます。

細かい話で、実はわれわれ車屋の商売からいうと、カーシェアリングなども含めて、絶対に車の台数は減ってしまいます。これは困るのですが、間違いなく大きな変化がすぐそこまで来ているということがあります。ですから、やはり富山地域としてのコンパクト性を、富山地区あるいは新川、砺波、いろいろと役割分担を含めて、まだまだいけると思いますが、先ほど話があったように、有名な観光地以外も含めた移動手段も大きく変わってきますので、これは国のレベルでの交通法規の問題などいろいろなことありますが、やはりそれを中長期的に見据えて考えていかなければいけないと思います。

#### 【羽根委員】

- ・ 私は MICE、とりわけ学会や国際会議などコンベンションの業界として少しお話しします。MICE というのは M・I・C・E で、M は企業ミーティングです。薬都とやま、ものづくり富山では毎日のように繰り返されてきて、表に出てきていませんが、とても魅力的で交流人口を増やしている要素だと思っています。I はインセンティブツアーで、報奨旅行や招待旅行です。「海のあるスイス」というキャッチフレーズが世の中にばんと出ていくと、ここが非常に注目される可能性があると思っています。それから C は、いわゆるコンベンションです。E はエキシビションですから展示ということで、分かりに

くいのですが、MICE という言葉が業界では非常に重要視されています。

今回、この計画を読ませていただいて、観光・コンベンションの項目の中にユニークベニユーの積極的な開放が加わっていて、MICE 誘致の売りがすごく強化されたと感じております。最近、MICE で選ばれる開催地の決定打の中に美術館や、先ほど立博の話も出ていましたが、博物館などユニークな場所での開催が求められることが大変多いです。ところが、どうしても時間や管理の規制に阻まれて、今まで随分苦戦してきたのですが、富山県は積極的に開いてくださるので、大いに他の地域を引き離してきたと思っております。

これはアーケード街や野外の公園、寺や神社のような所もニーズが高まってきているのですが、引き続きこの開放を一緒にお願ひしたいと思っておりますし、産業観光のサイトとユニークベニユーが一元化されたサイトが有縁的に結び付くと、有力で強固な MICE 誘致ツールになると思っております。

- ・ もう 1 点は、テクノホールです。もともとテクノホールは、MICE でいえばエキシビション（展示）施設として利用されてきたのですが、このたびの増床により、再来年に 1500 人強の経済団体の全国女性コンベンションが開催されることになりました。そのような 2000 人弱クラスの大きな大会が 1 カ所で式典・セミナーができ、隣に移動するだけで懇親会ができ、ストレスなくスムーズに開催できるようになったことはすごく魅力的です。実は、E の展示会場というのは C のコンベンション会場にもなり得るので、いい施設になったと思っております。

ところが、この傾向は富山だけでなく、全国でも群馬、長崎、熊本がコンベンションと展示会場を組み合わせた施設をオープンしようとしていますし、ライバルたちは総合的に売り込んできています。先ほども言いましたが、そういう意味でも「海のあるスイス」が発信されれば、国際的な企業ミーティングやインセンティブツアーは今まであまり注目されていなかったかもしれませんが、この先 10 年、このようなことも注目されてくるのではないかと期待していますし、こういうコンベンションや展示という分野を超えて誘致を進めるためにも、MICE という横断的な誘致戦略も戦略としてご検討くださるとありがたいと思っております。

#### 【山地委員】

- ・ 総合計画の骨子案を拝読しましたが、これまでの総合計画をベースにして、新しい情勢変化も取り入れて、的確にまとめておられると思いました。本日、頂戴した議題に即しまして、私の意見を述べさせていただきます。

地域の特性と課題については、特に付け加える点はありません。産業振興、観光振興とも、富山信用金庫がお手伝いしてきたものであり、農林水産分野についても当金庫として取組みを始めている分野です。富山地域の特性と課題を踏まえて、新しい総合計画の政策体系において今後 10 年間、県として取り組むべき政策であります。これについても新総合計画でよく整理されており、特に付け加える点はありません。

- ・ ただ、政策の実効性を高めるために今後議論したいのは、優先度とコストです。県の優秀なスタッフの方々をもってしても、限られた資源で多岐にわたる課題を同時に進めていくのはなかなか難しいように思います。新幹線の開業で、交通基盤の整備がある程



度進んでいくと考えれば、今後の重点施策は観光に関する招致施設の整備を第一に優先し、次に製造業、農林業などの産業の整備を進めることではないかと思っています。防災については、不断の課題だと思っています。

- 新総合計画の骨子案については、地域委員会でコメントするのはふさわしくないかもしれませんが、3点ほど述べさせていただきます。一つは、やはり広報戦略を総合計画に明示的に織り込むべきだと思います。Uターン、Iターンの促進にしる、観光客誘致にしる、結局は県外の人に富山県が魅力ある県だと分かってもらうことが重要だと思います。北陸三県で1番というだけでは足りず、例えば北海道、東北地方、中国地方の県と比べて、富山が1番であることをPRしていく必要があるのではないのでしょうか。東京にある日本橋やヤマダが成功した理由を分析し、より幅広く展開してはどうでしょうか。
- 二つ目は、キャッチフレーズの重要性をお話ししたいと思います。基本理念・目標は今後検討することになっているようですが、例えば「日本一便利な県にしよう」といったおじいちゃん、おばあちゃん、子どもたちでも分かりやすい標語にしていくことが大事だと思います。
- 新総合計画骨子案「総論編」の41ページに重点戦略が記載されていますが、もう少し具体的に、県民の雇用を確保するための産業振興、二つにはインバウンド経済に取り組むための観光の活性化、三つ目は今言った一つ目、二つ目を支えるための人手の確保、そのために働きやすい社会基盤や制度の整備、Uターン・Iターンの促進、観光客誘致のための広報戦略の充実といった記載をした方が、県民の頭に入りやすいのではないかと思います。
- 最後に当庫のPRですが、来月20日に県外の方を含めて200名以上のメンバーで立山に登り、外来植物の除去ボランティアを行います。立山の自然の良さをPRすることもやっております。

#### 【高木委員長】

ありがとうございます。ここまでのところで、石井知事、コメントをお願いいたします。

#### 【石井知事】

- 皆さん、大変貴重で多岐にわたるご意見、ありがとうございます。一つ一つお答えするのは難しいのですが、まず最初に、商工会関係の代表の皆さまから、それぞれ人口減の話や空き家対策、もっと企業誘致をしてほしいといったお話がありました。企業誘致等はもちろん一生懸命やって、それなりの成果も出ていると思うのですが、同時に工業団地など受け皿の問題もありますから、また今後、市町村ともいろいろな面でこれまで以上に連携を深めていきたいと思っています。今日は市町村長さんもおられて、大変ご熱心な首長さんが多いですが、引き続き努力してまいります。
- それから皆さんのお話の中に、後継者対策がありました。廃業が非常に増えてきて、後継者がいない。個々の商店もそういうことが多いと思いますし、また中小規模の企業でもそういうことがあろうかと思っています。こうした点は総合計画の中でも何か位置付けてもいいと思っていますし、全国的に日本は新たな起業よりも廃業の方がどんどん増え

ています。特に農業の分野でもそうですが、商工関係でも、いよいよ団塊世代の方が70歳近くになり、もう少したつと70歳を超えます。そういうときに、それなりの立派な事業をやっておられるのだと思いますが、なかなか後を継いでくださる人がいない。

しかし、全くいないかという、県もとやま起業未来塾を始めて12年たちますが、なかなか意欲ある若い人もいっしょるので、そういう若い人たちとのマッチング、県内にいっしょる方、それから大都市方面から富山に魅力を感じていっしょる方などとの何かマッチングの仕組みのようなことを、今までもやっていないわけではありませんが、これまで以上に産業界、金融の方などいろいろな方のご意見を伺いながら、ちょっと考えてみたいと思っております。

- 観光の点で、例えば立山駅で2〜3時間待たされるという話もありました。こういう各論については、その原因なども調べて、関係の交通事業者の方に問題提起したいと思っております。この問題はいろいろな場面で出ますから申し上げているのですが、また努力してまいりたいと思っております。
- 子育て支援は大事で、特にこのまま人口減少が続きますと日本全体が大変なことになります。幸い地域間流動は、外国人を入れると、うれしいことに富山県は11年ぶりにプラスになりました。226人のプラスです。これは、先ほど東北や北海道の話も出ましたが、中国や山陰地方、九州も含めて人口100万〜200万人の県では、社会減が3000人や5000人というのは珍しくありません。そういう中で、プラス226人というのは、よその県の知事は「えっ？」と思うぐらいの数字です。しかし、これで安心することなく、ぜひ東京をはじめ、いろいろな所から若い人に来てもらうように努力しなければなりません。同時に、もう少し出生率が上がるようにしなければなりません。これは熱心に取り組んでいっしょる市町村長さんもおられますが、おっしょるように費用対効果もありますので、どうやったらいいのか、よく考えてみたいと思っております。
- 観光の点で、何人かの方から「海のあるスイス」というのは大変いいキャッチフレーズだのご評価いただいて、感謝申し上げたいと思っております。ちょうど来週、立山黒部を本当の意味でブランドにしたいと思ひ、そのための勉強にスイスにも行ってまいります。もともと「海のあるスイス」というキャッチフレーズを作り出した発端も、スイスのある方から「石井知事、あなたはスイスを観光の面で素晴らしいと言って褒めてくれるけど、スイスには山しかない。しかし、富山には山だけでなく海もあるじゃないか」と激励してもらったことも経過としてありますので、せっかくの素晴らしい立地に恵まれている富山県が、ものづくりだけでなく観光でも一流だと言われるように頑張っていこうと思ひます。そのためにも、この総合計画でそういう位置付けをしたいと思ひている次第です。
- また、MICEの話はおっしょるとおりで、幸い今度、これは高木委員長をはじめいろいろな経済界の方にお世話になりましたが、今度のテクノホールは非常に多機能型になって、使い勝手が良くなっています。ぜひこれを大いに活用して、いろいろなコンベンションなどさまざまな機会に活用していただき、またそういうものがあることをアピールし、もっと他の手法で有効活用できないかということも含めて努力してまいります。
- 山地委員さんには、本当に信金の全国ネットワークをお使いいただき、観光面やいろいろな点でご尽力いただいていることに感謝申し上げたいと思ひますし、今後は広報戦

略が大事だというのは、Uターンにしる、移住にしる、まさにそうだと思います。もちろん北陸で1番ではなく、どうも日本の中でトップクラスの県らしいという感じがじわじわと全国的に広まりつつあると思っております。だからこそ、移住が増えていると思うのですが、それで安心するのではなく、この流れを加速化していくための総合計画でもあると思っていますので、一つよろしくお願ひしたいと思ひます。

#### 【高木委員長】

ありがとうございます。それでは、観光、交流、交通、そして教育、文化、福祉の方に移ります。永崎委員、お願ひします。

#### 【永崎委員】

- ・ 立山黒部アルペンルートの立山黒部貫光から参りました永崎でございます。前半部分でたびたび立山のお話を出していただき、ありがとうございます。わがアルペンルートについては、昭和46年に全線開通してから、あと4年で50周年、半世紀を迎えます。仮に百年の計とすれば半分が終わったわけで、私どもも立山を次の50年のステージに載せなければいけないところに来ています。いろいろ頑張っていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

- ・ 一つだけお話ししたいのは、参考資料1の「結果の要点」のところで、「情報化が更に進展するとともに、文化に親しむ機会や各分野で活躍する住民が増加している」と考える人が多い」とあります。まさに僕もそう思っております。情報によって人が動くことは当然あるわけで、そうすると、より高い文化や物を求める動きも出てきます。逆に県内から、それを求めて外に流出することも出てきますが、その逆も考えられるわけです。

わが社の例で大変恐縮ですが、数年前に東京から新入社員の応募がありました。大学で環境を勉強しておられた方でしたが、たまたま「環境」というキーワードで検索したら、わが社が引っ掛かったというのです。国立公園内で環境を考えた事業を行っているということで引っ掛かったようですが、ちょっと面白いということで応募していらっしゃいました。その方が応募したきっかけになったのは、北陸新幹線なのです。2時間で東京から来ることができるといふ身近さを非常に感じ、今までは日本海側の富山は非常に遠い地区であったにもかかわらず、今はものすごく近く感じているということで応募されたという例があります。

先ほど少し申しましたが、県内から外へ出ていく動きもあると思ひますが、その逆も当然あるわけです。でも、その人たちが何の魅力で富山に来るかという点、他にないような特化した魅力を富山県に求めているということであれば、総花的にいろいろな分野で発信してもなかなかうまくいきません。従って、各分野の中で、特化した形のもを伸ばしていき、その他の部分を追随して、一緒に連携して、そうして知ってもらうことは非常に大事ではないかという気がしています。

私のところで大変恐縮ですが、アルペンルートは県内の市町村と連携しており、立山にいらっしゃったお客さまに県内各地域のいろいろな情報を発信する事業をずっとやっております。そういう形で、立山が目的でいらっしゃった方でも、富山の他の地区の情報があつて、こういう面白いものがあるから今度行ってみたいという動きになるとも

聞いています。ですので、私はできるだけ各分野の中で特化することをもう少し考えていただければいいと思っているので、お願いしたいと思っております。

#### 【島川委員】

- ・ 観光創造会議の島川です。実は観光創造会議というのは、中心市街地があまりにも寂しいということで有志が集まり、まず自分たちの街を知ろうと勉強会から始めた会なのです。たまたまうちが昔から飴屋をやっていて、街の中にお店があったので、私も加わりました。今は十数年前に始めた時より中央通りにしても閑散として、街が一段と寂しくなった気がします。

勉強会は、街と菓をベースにしていました。富山県は、「菓都とやま」と言われていますが、菓に関する色々な事業がどうして富山に根付き、発展してきたかという事を「町の駅」という看板を掲げ、来られる観光客の方や地域の小学生や遠足でみえる県内の子ども達にお話しをしています。5～6年前から、近くの小学校が町探検で地域のお店に回ってくるのですが、中学生になっても来てくれたり、遠足で1度来たきりなのに、あの子どもの話が面白かったと来てくれる子どもさんも何人もいらっしゃいます。

私がものすごく大事だと思うのは、富山の歴史を知ること。それを小さな子どもたちに知らせることです。私も観光創造会議に入るまでは全然知りませんでした。夏休みにはたくさんの企画があり、バスツアーを組んで、いろいろ回っておられます。

一番の大本である「富山県はどうして菓都と言われているのか」「今どうして売菓さんがいなくなっているのか」などを教えていくべきだと思います。それが将来の富山の礎になると思い、私たちはみなさんに接しています。

もう自分たちの力ではどうすることもできません。売菓の文化を富山県として大きく取り上げていただきたいです。呉羽山に売菓資料館がありますが、中央通りに、今あるものを活かし、資料館のようなものを作ってほしいです。街の中に人を呼び込めば、いろいろ発展・波及すると思います。

何しろ売菓文化は、富山の大事な基礎の文化です。それをベースに富山市内の観光に結び付けていただけたらと思います。

#### 【中田委員】

- ・ 富山地方鉄道の中田でございます。まず企業として一番お願いしたいのは、やはり労働力の確保です。新幹線が来て、私どももダイヤを増やしましたが、人手さえあればもっと増やせたとつくづく思っていますし、今後ますます人口が減って、働き世代の人が減ってくると、労働力の取り合いになってくるのではないかと。労働力のあったところが活力がある状況になりかねないのではないかと。私も採用担当としてつくづく、そう思っております。
- ・ 2点目は観光の関係ですが、通年観光による観光産業の育成といえますか、富山県内に観光客の方が一年中いらっしゃる状況をつくり出すことが、それに携わる企業の人たちの活力になってくるだろうと思います。やはり年間を通じてでなければ、産業としては機能しないだろうと思うので、ぜひこの辺についてご検討をお願いしたいと思います。
- ・ あと、おもてなしなどいろいろなやり方で観光客は確かに増えていますし、評判もい

いのですが、先月、大学卒の新入社員の面接を行いました。6割ぐらいが富山県内の学生なのですが、半数以上が立山山頂へ行ったことがないのです。それで、どんな仕事かしたいのかと聞くと、駅や観光案内所でお客さんに説明したいというのです。その割には、アルペンルートだけでなく、黒部峡谷の檜平に行ったことはありますかと聞いても、ほとんどの子が行ったことがない。そういうことがあるので、県民のおもてなしの中にはやはり、県民の方が県内、特に富山地域の観光資源を知ること、まず己が知り、情報発信することが大事ではないかと思いました。

#### 【室伏委員】

- NPO「まちなかライフスタイル研究会」というまちづくりの活動を15年ぐらいしております。最近千石町通りにあるギャラリーで、2カ月に1度、「まちのかたり場」ということで、そんなに有名な人ではなく、街で普通に仕事をして、活動している方をお呼びして、みんなでまちづくりのことでわいわい話をしています。年6回やって、5年続いており、延べ500人ぐらいの方と一緒に話したと思っています。

私自身も、中心商店街の中でも何十年も仕事をしており、街の変遷をずっと見てきました。仕事は中央通りで喫茶店をしており、島川さんが先ほど「衰退著しい中央通り」とおっしゃっていましたが、確かに私が若い頃から見れば、中央通りの人通りは本当に少なくなりましたし、そういうことから見れば本当に衰退していると思いますが、それでも最近ちょっと新しいお店が増えたり、頑張っている老舗のお店があったりするのが見えてきます。

例えば私の店のすぐ近くにあるお店はブティックなのですが、ここのお店には全国からお客さまがいらっしゃいます。本当にびっくりするのですが、東京・大阪はもちろん金沢からも来ますし、宮城県や名古屋からもいらっしゃるのです。商店街にお店を構えていながら、ネット販売を半分以上やって稼いでいるお店が多いのですが、そのお店はネット販売を一切やらずに、実売だけで頑張っているのです。これはどうしてかと思っていると、やはり自分たちが売っている商品についての目利きだったり、いろいろな業者とのつながりの中で生まれた特別なものを仕入れているということがあり、やはりそこには文化というか、そのお店が持っている商品の文化や物語をちゃんと語っているからなのかなと思っています。

- 今回の基本計画の中に、「県づくりの視点」の中の「新たな価値創出」で、「経済力と文化力の相乗効果で新たな価値を創出します」ということで、文化力が出ていてすごいなと思っています。まさに昔の商店街は文化が生まれる場所でした。それは人が多く集まって、いろいろな人たちが交流することによって、自然に生まれてきた文化があるのだと思うのですが、今は確かにそういう力はなくて、街の文化とは何だろうと思いますが、私が「まちのかたり場」で皆さんと何回も回を重ねていると、街の中に人が集まり、いろいろな話をするのは、ささやかですが、そこで一つの文化が生まれるきっかけになるのかなということと、それから商店街の役割がすごく変わってきているような気がします。

今申し上げたように大変頑張っているお店もあれば、そうではないお店もありますが、例えば神奈川県厚木市にある映画館は、パルコという商業ビルを厚木市が買い取り、交

流施設にして、その中にもともとあった映画館をある民間企業が手を挙げてやったのですが、そこを娯楽施設ではなく、完全に福祉施設にすると言い切っているのです。料金も下げて、高齢者の方にどんどん来ていただくような取組みをしております。それがこの間、関東圏だけなのですが、NHKの「おはよう日本」で取り上げられました。今まで映画館だったものを福祉施設にするのはすごく不思議な感じなのですが、確かに私もちょっとそういうことに関わったこともあるものですから分かるのです。一人暮らしの高齢者の方がどこへ出掛けるかというときに、やはり交通の便利な場所ということと中心市街地、中心商店街になるのですが、そこへ何をしに行くのか。毎日買い物するわけにもいかないので、何らかの目的があって来るということで、例えば映画を見たり、お芝居を見たり、志の輔さんの落語を聞いたり、そういう何かがあってくると思うのです。それが、高齢者の方たちの元気のもとになっていると思っております。

これからは商店街の活性化などよく言われますが、その活性化の意味は商業ベースの活性化によく捉えられがちです。こちらに地域のコミュニティの役割の重要性も認識されていると書いてありますが、まさに中心商店街もコミュニティがきちんと行われる場所といますか、そういう捉え直しをしていただきたいです。そうすると、そこに商店だけでなく、違ういろいろなもの、先ほど島川さんは売薬資料館のようなことをおっしゃっていましたが、高齢者のための何かコミュニティの施設や学童保育の施設といったものが集積した場所になることも一つの活性化になると思います。中心商店街の捉え方も見直していただきたいですし、文化というものは複層的な面を持っています。いろいろな施設の中で、文化や情緒だけに流されず、その中で福祉の面やいろいろな教育の面などが出てくると思うので、その場その場でそういうことを、社会や富山が抱える課題に活かせないかということを考えていただいて、それこそ文化力のある人材が育つような環境になればいいと思うので、何かそういうものが分かりやすく入っているといいかなと思いました。

#### 【瀬川委員】

- ・ 富山県PTA連合会は小学校・中学校の保護者と先生方の団体です。資料を事前に拝見して、十分盛りだくさん過ぎるぐらい書いてあって、ありがたいと思ってお見させていただきました。中学3年生の子どもたちは修学旅行に行くのですが、帰ってくると、「立山連峰が『お帰り』と言ってくれる」と。そこに立山連峰というすごくシンボリックな山があるおかげで、そこにあるだけで十分ふるさとを感じるものがあるので、私は他県出身なのですが、その言葉を聞いたときに本当に富山は素晴らしい所だなと思いました。

子どもたちについていうと、幼稚園・保育所、小・中・高と連携して非常に手厚い支援をしていただいているおかげで、本当に安心・安全に暮らしていると思っております。小学校においてはふるさと学習、中学校では「14歳の挑戦」、事業者様にご協力いただいている、ありがたいと思っております。また、高校生もインターンシップ等で、トータルキャリア教育が図られていて、子どもたちが他県、他の地方に行って学んできても、また富山に帰ってきて働こうかなという意識付けにもつながっていると思います。中学校においては「14歳の挑戦」をする前に「13歳のハローワーク」と題して、PTAが中心となって中学校に出向いて、社会性、職業観、勤労観などを語る取組みをしておら

れる学校も増えております。

富山地区は、富山の中心地であり、大学、短期大学、専修学校、高等専門学校、公立高等学校等の教育機関があり、学ぶ環境に恵まれています。

ただ、今後 10 年で考えていくと、ますます多様な家族、家庭が増えてくると思います。外国籍のお子さん、帰国子女など増えてくると考えられます。今後、経済的な事情等、様々な事情で中途退学、進学を断念する、奨学金返済困難など想定されます。そういう人たちが学びを諦めないこと、支援を要する児童生徒も増えているので学びを諦めないような取組み、また多様な学び方ができるような、高校再編というか、いろいろな学び方ができるような取組みが必要なのかなと思います。

- あと、グローバル化ということで、非常にキーワードが多かったように思います。ただ、本当にこれだけいっぱい書いていただいて申し訳ないのですが、子どもたちはすごく忙しいのです。何か本当に忙しいのです。学校での学びは本当にキチキチです。小学校の子どもたちが外で遊んでいる様子を、皆さんあまり見かけないのではないのでしょうか。習い事であったり、学童保育が非常に充実しているおかげで、そこで放課後を過ごすおさんも多いのですが、本当に忙しくて、これだけやっていただいてもなかなか消化し切れないのが現状です。

あと、私たち子育て世代も実は共働きが多くて、聞くと「生活にいっぱいいっぱい」という意見が多いです。一方では、余暇も楽しみたいということで、欲張りなのかなとも思うのですが、そういう点で女性も社会進出ということで、恐らく働き方の転換期に来ているのかなと思います。

本当にありがたいのですが、こういう整った子育ての施策や教育環境について、実は知らない人が多いので、十分活用できるような分かりやすい情報提供を今後、私ども当事者もお互いに発信できるように、また行政の方からも伝えてくださいますよう望みます。

#### 【石川委員】

- 私は前の近代美術館からずっと関わってきて、今度できた富山県美術館で、同じように友の会の副会長をしております。おかげさまで、春から部分開館しておりますが、もう今までに 40 万人以上の入館者がありまして、もうびっくりするような数字になっています。いよいよ来月 26 日には全館開館になります。ここにいらっしゃる委員の方々に、もしまだいらっしゃっていない方がいましたら、ぜひいらしていただきたいと思えます。県美になって場所が変わって、本当に素晴らしい場所で、それこそ先ほどから何度も出ている立山連峰が一望に見渡せるというすごいロケーションなのです。ですから、美術館に来た人がさらにその風景を見て「立山にも行ってみよう」となれば、もっといいかなと思います。そして今度、「千年の桜並木」という計画ですか。環水公園からずっと新しい桜の名所ができるということで、これから 10 年たてばその木も随分と成長して、いい所になるのではないかと思います。それもまたプラスの材料で、本当にいい場所になったと思っております。

中身のことでありますが、今までよりデザインにも力を入れる計画になっておりまして、富山県はいろいろ優れたデザインの素地がありますので、そういうものも一緒に入れてや

っていくと。そして県美のコレクションは、手前みそなのですが、全国の美術館の中でも恐らく10本の指に入るコレクションだと誇っております。本当は「5本の指に」と言いたいぐらいなのですが、素晴らしいコレクションがあります。それを存分にいろいろな切り口で活かしていただけるように、学芸員の方がこれから一生懸命努力されると思います。

そしてその他に、ワークショップの部屋というものがあり、今まで以上にお子さんたちや若い人たちが来て、いろいろなことができるスペースができました。ただ、参考資料1ですが、10年後に「音楽会や演劇、美術展など、さまざまな文化を楽しむ機会が増えている」という問いに「そう思う」という人が56.2%と随分多く、これはとてもうれしいのですが、これは県民の意識調査ですよ。ところが、資料の基本計画編の47ページでしたか、「訪日外国人が実施したい活動」では美術館・博物館を目当てに富山に来る人が本当に少ないのです。他に来たい動機があってもいいのですが、せっかく素晴らしいコレクションがあるので、この美術館・博物館にもぜひ外国の人に来てほしいです。前にも確か、富山県が世界に誇れるものの一つとして、そのときは近代美術館だったのですが、そういうものを挙げていたぐらいなので、できたら外国の人にも足を運んでほしいです。もちろん県民は当然というか、それで……。

#### 【高木委員長】

石川さん、すみません。これから後は紙に書いて出させていただくということで。まだあと6、7人おられますので、すみません。

#### 【野尻委員】

- ・ 富山市社会福祉協議会の野尻でございます。身寄りのない人、生活困窮した人の救済から始まり、だんだん長寿社会に向けて高齢者対策、障害者の共生社会など、経済成長とともに福祉も発展、充実してきたのですが、近年は貧困者や子どもの貧困対策まで手厚く広がり、福祉は結構充実してきております。

これが十分かどうかは別として、しっかり対策は進められてきていると思いますが、将来の人口減少、少子化という大きな問題の中で、20年、30年後を考えたらどうなるのだろうと思って自分たちも心配になります。「そんなに心配するのだったら、おまえがそれまでしっかり生きて、ちゃんと見届けろ」などと悪口を言われますが。

先だって市の社会福祉協議会の職員と暑気払いをやったときに、介護認定、高齢者のサポートあるいはボランティアの支援などいろいろなことで女性職員が多いのですが、「どう思う？」と聞いたら、「お年寄り対策や貧困者対策はそれなりにやっていますが、一番心配なのはまちなかにいる独身男性や独身女性がもう10年、20年したら一体どうなるか。後を考えたらぞっとしますよ」という話をしていたのです。「会長、あんたもちょっと、そっちの方面も真面目に考えてみなさいよ」と言われて、「俺、年寄りだからもう駄目かもしれん。そんなことは考えられない」と言っていたのです。

先だって送ってこられた総合計画の中身を見てみると、タイトルの中に結婚や出産・子育てがしっかり項目として挙げられています。私も昔、公務員だったので、総合計画のようなものにも携わったことがあるのですが、当時は結婚などというのは総合計画の



中の議論すべき問題にはなかったと思います。要するに、将来を考えると、これが大変な問題なのだということが最近クローズアップされているのだなと思いました。

それで現在、先ほどのお話にも出たとやまマリッジサポートセンターや仲人協会などもしっかりあります。それから SNS やアプリ、婚活サイト、情報サービスなども随分ありますし、街コンや一般に合コンもたくさん行われているのですが、これが実際どこまで本当に踏み込んでやっているかという中で、行政も皆さんに任せておきなさいというだけではいけなくて、もう一歩何か踏み込んだことをやらないと駄目なのではないかとも最近ちょっと考えたわけです。

ですから、もっと企業や自治体などいろいろな団体が大きく手を結んで、大きな合コンの仕掛けですか、合コンというとおかしいのですが、いろいろな研修会や異業種交流会、あるいは大きなイベントの中にそういう方をたくさんお招きして、触れ合い、出会いの機会を継続的に広げていく方法だとか、あるいは、昔、地域にはおせっかいなおばさんがいて、必ず仲人になってまとめていたように、これからの時代は、行政からおせっかいをお願いしたいような方をうんと広げて、出しゃばって取り組んでいくようなシステムもあり得るのかなと思いました。よろしくをお願いします。

#### 【伊東委員】

- 骨子案の 51 ページに書いてありますが、「市町村は基礎的自治体として、福祉や消防、義務教育、まちづくり、水道、一般廃棄物処理など、住民に密接なサービスとを一層充実していく一方で、県は、広域自治体として、産業政策や雇用の確保、広域的な社会資本整備、教育等の人づくり、環境保全や防災対策といった広域的な行政を担うとともに、市町村を適切に支援、補完し、相互に連携・協力しながら、県づくりを進めていく」、誠にいいことが書いてあります。そこで、このときにぜひ、前に一度あるところでも申し上げましたが、これについてコンパクトな県ですので、公平と効率を考えていただいて、適切に弱いところに手を打ってもらいたいと申し上げます。
- それから二つ目は、行政は一生懸命、基礎的自治体としてのことをやっていますが、現状では富山県はおかげさまで、インパクトがあったのは新産業都市だとか、8 号線、高速道路、新幹線とともに、他の県に負けないほど伸びてまいりました。片方で、グローバル化が今は当たり前になっていますが、グローバル化が進めば進むほど農林業が疲弊してまいりましたし、それによって商業、中心市街地もみんなアウトです。このことが全てのことに起因していると思うので、国を挙げていいかげん気を使わないと、グローバルだと酔っぱらっていると、日本の国は駄目になってしまうもどかと思うので、県を挙げて、町村を挙げて、農林業をどうしていくかを真剣に考えてほしいと思っています。
- それからもう一つは、今まで新幹線あるいは高速道路、それから新産業都市というインパクトがありましたが、ぜひこの 10 年先を見計らって、大阪までの延伸もそうですが、トンネルを造ってもらいたいのです。このことが富山県にとっては、富山湾を活かす大きなものになると思います。大きな経済発展というか、富山県の発展のポイントになると思いますので、力を入れてもらいたいことを申し上げて終わります。

#### 【上田委員】

- ・ 滑川市です。いっぱい話すことはありますが、時間の制約があるので、今やっていることだけを申し上げます。
- ・ 子ども第一主義でやっています。子どもと、子どもの親のための子ども第一主義です。そこで、中3まで医療費をただにしたのが一番早かったです。インフルエンザの補助金を2000円出しています。これは統一します。それから、体育施設・文化施設は、子どもたちは全部ただになっております。そして去年は、第2子の壁を突破するために、2番目の子どもは保育所・幼稚園を全額ただにしました。人口は落ちていますが、滑川は0.28%減、富山市は0.29%減で、一応数字の上ではトップに立っています。有権者は33人増えました。入ってくる数と出ていく数の差は79人増えています。そんなことで、子ども政策を継続してやると、結果としてはそうなることを申し上げたかったのです。

子どもの保育料をただにしたのは、中国ではありませんから、2人目の壁は経済的な理由で産まないの、ここを突破するためにやったわけです。よその市町村から取りたいなどというのは、絶対やってはいけないこと。一つの個別家庭の中において、兄弟がいて、家庭が元気になることで、地域が元気になる。お母さんは正規雇用をやってもらって働く。家庭経済が安定すれば、家庭が貧困で学校にやれないというのも解消できます。企業は女子力を得て強くなります。そういうことを総合的にやっているわけです。そんなことも参考にされたいかかと思えます。
- ・ それから、産科の先生がいません。いなくなってきました。これは国家的な問題で、各地区で安心して産める富山県にしなければいけません。市も県も町も一体になって、これをやらなければいけません。厚生労働省そのものが考えてもらいたいということで働き掛けておりますが、これからの大きな課題として捉えていきたいと思えます。選択と集中しかありません。

#### 【舟橋委員】

- ・ 市町村だけの取り組みでは限界があるのは、カラス、サル、シカ、クマ対策であります。動物は市町村の境界が分かりません。そのためにもハード対策、そして規制緩和にこれまでも取り組んできておられますが、ぜひお願いしたいと思えます。里山が荒れれば、国が減ぶと思えます。よろしくお願ひいたします。

#### 【古越オブザーバー（金森副委員長代理）】

- ・ 舟橋村でございます。日本の人口は少子化の進展と急速な高齢化により、人口減少が続いているわけです。少子化の流れが変われば、社会全体の若返りを期待できるかと思っております。お互いに助け合うという県民性は、まだ富山県に十分残っているのではないかと思えます。子育て世代を地域全体で温かく見守り支える地域づくりの支援策の充実は欠かせません。同時に、お母さん同士のつながりから生まれる安心感・連帯感、子育て世代自らが助け合う活動から生まれる安心感も非常に大切ではないかと思っております。お互い助け合うことにより、みんなで負担なく子育てを助け合う地域社会づくりが、もう1人子どもを産んでもいいという安心感につながっていくものと思っております。サービスを利用する側だけでなく、自らのつながりから生まれる安心感を得ら

れる活動も、これからは大切になってくるのではないかと考えております。

- それともう一つですが、舟橋村は常願寺川が形成した扇状地の先端部に位置しております。その恵みを受けながら日々の生活を営んでいるのですが、安心・安全な生活を享受できている陰には、住民の皆さんはあまりご存じではないかと考えておりますが、営々と工事が続けられている砂防事業がございます。私が小学生のとき、担任の先生から「常願寺川の河床は大和の屋上よりも高いぞ」と。今のキラリですが、そういう教えを頂きました。

地域の特性のところに、今後とも治山治水、海岸保全という記載になっておりますが、砂防事業が現在の安心感を与えてくれているので、もう少し砂防の重要性を加筆していただくことができないかと願っております。以上でございます。

#### 【前田オブザーバー（森副委員長代理）】

- 富山市の企画管理部次長の前田と申します。まず今回の県の新総合計画について、先ほど山地委員もおっしゃいましたが、全体の話を上げると、これはやはり選択と集中といいますか、優先度とコストの重視が大変重要だと思っております。私どもも昨年、合併後2回目の第2次富山市総合計画、今日いらっしゃいます高木繁雄会頭に審議会会長としていろいろご足労いただいたわけですが、今年度から新たな第2次富山市計画をスタートしておりますが、やはりどうしても優先度、重点化を意識して進めなければならないと考えています。

今後の人口減少は避けて通れず、税収減で交付税も大変厳しくなっております。臨時財政対策債といったことで、本来は交付税として国が支給する分を地方に借金させて、それを交付税に充てるのがだんだん増えてきております。将来、基準財政需要額に算入されて国から返ってくるとはいうものの、借金返済額がどんどん交付税の中で割合が高まってくる傾向の中、総合計画といえども、しっかりと重点化していくことが大変大事だろうと思っております。一方で、県民に夢と希望を与えなければならないということで大変ご苦労なさっていることが、この総合計画の骨子案からもうかがえるところです。

- そういう中でまず何点か、細かいところですが、別紙の資料7で、富山地域の特性と課題をいろいろお書きになっていただいています。これは富山地域に限らず、全体的な特徴であると思いますが、まず富山の人の強みということで、決して閉鎖的ではない人柄だと。進取の気性を持って、富山売薬に代表されるように全国的にも先用後利ということで、いろいろな所に行っていたらいます。そしてまた北前船ということで、東北、北海道、樺太まで開拓者精神にあふれて、今日の富山の大事な産業の礎を築いた。そういう進取の気性をぜひ富山全体の強みとして打ち出していきたいと思っております。その他にも、災害が少なく、出火率が全国一少ない。これは26年連続です。それから、犯罪認知件数が少ない、生活保護率が全国一少ない、街が美しいという特徴、そして地縁性に優れているといった富山全体の強みを、もう少し書き加えていただければいいのではないかと思います。
- それから、参考資料2のカラー刷りですが、まず「活力とやま」のところで、農産物で「呉羽なし、白ねぎ」などいろいろ書いていただいておりますが、富山市としては

ぜひエゴマをここに加えていただければありがたいと思っています。大沢野地域の耕作放棄地 24ha を、知事さんのご尽力により県営事業として今年度いっぱい整備が完了し、来年度からいよいよ 24ha を、一部やっておりますが、エゴマの一大産地ということでやっていくことにしています。出口もしっかり確保しておりますので、こうした新たな価値創造についても書き加えていただければ大変ありがたいと思っております。

- それから、先ほどどなたかのご発言にもありましたが、特に中央通りといいますか、富山市中心部のにぎわい創出が大変重要になっていますが、ご案内のとおり、一昨年、旧大和デパート跡地に富山市ガラス美術館ができました。今月初めに図書館と合わせた来館者数が 130 万人を突破し、大勢の方に来ていただいております。また、グランドプラザでは、土日は 1 年間全てイベントなどが開催されるということで、西町周辺、総曲輪通りなどの人の往来は往時の姿までには戻っていませんが、かなり戻っていると考えております。そうしたことから今後、波及効果がどんどん中央通りにも出てくることを期待しています。

もう一つ付け加えさせていただくと、この 8 月に富山県美術館がグランドオープンされますが、富山市の方では今年 4 月から、市内の博物館・美術館の共通パスポートを購入していただいた方に、4 月からギャルリ・ミレーや樂翠亭美術館、森記念秋水美術館の観覧の団体割引が、制度として始まっております。中心部の美術館などで滞在していただき、美術館巡りをしていただき、また買い物もしていただき、とにかく長く中心市街地に滞留していただくという取組みもしています。富山県美術館さんともそういう意味での連携を今後図っていきたいと思っているので、そうした美術館同士の連携などについてもまたよろしくお願ひしたいと思ひます。

#### 【高木委員長】

最後に石井知事さんからコメントをお願いして、ご挨拶もお願いしたいと思ひます。

#### 【石井知事】

- 皆さん、大変貴重なご意見、また多岐にわたるご意見、ありがとうございました。後半で最初に永崎委員が言われたように、新幹線で 2 時間となったということで確かに脚光も浴びていますので、そういう場合に総花的ではなく、できるだけ特化した富山県の魅力を伸ばしたらどうかという話もありました。そういう意味で、立山黒部の真のブランド化、世界で最も美しい富山湾の魅力の創出など、いろいろなことをやっていきたいと思ひますので、またよろしくお願ひしたいと思ひます。
- それから何人かの方から、中央通りをはじめ、まちなかがなかなか厳しいというお話がありました。この点については、今日は高木委員長はお時間がないから遠慮しておっしゃいませんが、ミレー美術館、てるてる亭など、北銀さんなども随分お力を入れておられますが、本当にまだまだ課題はあると思ひます。この辺はまた、いろいろな富山市さんの施策や民間の皆さんの取組みを、県としてもできるだけバックアップしていきたい。特に市街地再開発については、富山は恐らく全国の都道府県の中で一番熱心にサポートしているというか、応援している県ではないかと思うのですが、今後も努力してまいります。

- それから今後、人手不足がいよいよ本格化して、労働力の取り合いになります。しっかり人を確保できたところが発展することになるのではないかという話もありましたが、確かにそういう面があると思います。ただ、同時にこれは行政というよりも、やはり人手不足になると、最後はそれなりの処遇を企業がどこまでできるか。例えば今まで非正規だった人を正規雇用にするとか、同じ非正規雇用でも張り合いのあるような賃金を払うとか、あるいは労働環境を良くするとか、そういう問題もありますので、まずは企業の方でもご努力いただかなければいけないと思います。

また、県としてもできるだけそれを支援したいということで、厚生労働省にもお話をして、「地域活性化雇用創造プロジェクト」ということで、中小企業が一定の人材確保をするときに、半年間ほど給与の一部を補助金として出すという、なかなか今までなかったようなことをしておりますので、またご活用いただければと思います。

- それから、経済力と文化力の相乗効果を、私どもは新しい価値の創造として打ち出そうとしていますが、幾つかいろいろご提案もありました。街の中に娯楽施設だけではなく、福祉施設や高齢者にとって魅力ある場所にとというお話がいろいろとありました。これは、どうしてもまちづくりですから、市が中心になると思いますが、そうした富山県さんや、今日は他の市町村長さんがおいでですが、皆さんと連携して、県としてもサポートしたいと思います。
- また、瀬川委員から、実は子どもたちも随分忙しいという話がありましたが、恐らくそうだろうと思っております。そうしたことも念頭に置きながら、共働きする方が多いというのはありがたいことで、これから男性も女性も持てる力を大いに発揮して、大いに社会の生産力を高めてもらい、同時に余暇も楽しんで、人生も楽しむのが働き方改革だと思っておりますので、また努力してまいりたいと思います。
- また富山県美術館、いろいろ石川委員からご評価賜りましたが、これはしっかりと取り組んでまいります。「千年の桜並木」というのも、私もいつまで生きるか分かりませんが、いずれ10年、20年、そのうち寿命がみんな来るのですが、それでも100年後、1000年後に素晴らしい桜並木がこの富山の地にあると思うと、何となくうれしくなるのではないかと思います。

また、お話に少し出なかったかもしれませんが、幸い瀧口修造やシモン・ゴールドベルクなどの特別室も設けております。この人たちは美術は美術だけ、音楽は音楽だけというのではなく、美術とデザイン、美術と音楽を融合して新しい芸術文化を生み出そうとした人です。シモン・ゴールドベルクも音楽を極めるには美術も学ぶ、文学も学ぶことが必要だと言った人なので、そういう視点も入れて富山県美術館の運営をしていきたいと思っております。

- それから上田市長さんは子育て支援を大変熱心にやっておられて、敬意を表したいと思っておりますし、舟橋立山町長さんはサル、シカ、カラスの話をおっしゃいました。これは、ご要望があって市町村の事務にしているのですが、もちろんおっしゃるように、市町村の境界を越えて活動しますから、こういう点はまたよくご相談しながら進めてまいりたいと思っております。
- それから、伊東町長さんからもかねてから大変ご指導いただいております。農業の衰退は、このままではいけません。むしろ非常に厳しい面もある半面、若い人が改めて農

業に参入しつつあるのです。特に富山県の農業未来カレッジに若い人が結構入ってきて、そこから毎年20人ぐらいが出るのですが、ほとんど100%農業をやっているのです。だから、厳しいですが、ぜひ未来に希望を持って頑張っていきたいと思います。また、立山にトンネルという話については少し時間がかかるかもしれませんが、またよく勉強してまいります。

- その他、舟橋村の古越さんからも、もう1人子どもを産んでもよい社会をつくらなければいけないとか、砂防の重要性、また富山市さんからもいろいろありました。先ほどおっしゃった進取の気性、閉鎖的でない、災害が少ない、これは富山地域の強みでもあるけれども、富山県全体の強みですから、富山県全体の魅力・強みとしてどこかに位置付けたいと思います。その他、街のにぎわい、呉羽なし、エゴマ、いろいろございました。こういう点はまた計画を進める中でうまく位置付けてまいりたいと思います。
- 今日は本当に多岐にわたるご意見がありました。本当は高木委員長もいろいろおっしゃりたかったのですが、遠慮されまして、また今後ともよろしく願います。どうもありがとうございました。

#### 【高木委員長】

石井知事さん、ありがとうございました。そろそろお時間となりましたので、本日の会議は閉じさせていただきたいと思います。